

# 3章 国際化の現状

海外、国内の動きから、日本・大分市を取り巻く現状を紹介します。

## 1. 日本の現状

日本では人口減少と高齢化が加速し、これから10年以内に600万人近くの生産年齢人口が減少し、このままでは社会システムが成り立っていかなくなると危惧されています。また、インターネットや交通ネットワークなどの飛躍的な発展により世界の出来事が私たちの日々の生活や活動に大きな影響を及ぼしています。海外旅行が身近になり、輸入品が身の回りにあふれるようになりました。また、最近では訪日観光客数が過去最高になるなど地方においても外国人と接する機会が多くなっています。



### 海外

- 経済のグローバル化（TPP、RCEP など）
- アジア諸国の台頭
- さまざまなリスク要因（感染症、地球温暖化、サイバー攻撃、国際テロ） など

※TPP……環太平洋戦略的経済連携協定  
※RCEP……東アジア地域包括的経済連携

### 国内

- 少子高齢化の加速
- 生産年齢人口の減少
- 訪日観光客の急増
- ラグビーワールドカップ2019（平成31年）、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会（平成32年）の開催 など

## 2. 大分市を取りまく状況

### 【動向と課題】

本市においても、グローバル化<sup>\*</sup>の進展に対応するため、国際感覚を持ち、広い視野に立って考え活躍できるグローバル人材の育成やあらゆる国籍の市民<sup>\*</sup>がそれぞれの持てる力を最大限に発揮できる人権尊重を基調とした多文化共生<sup>\*</sup>によるまちづくりなど、より積極的な国際化の推進が必要とされています。

併せて、国際協力や都市間連携など、本市が国際社会の一員としての役割を果たすことも求められています。

#### ※グローバル化

人の往来、貿易、金融、サービスが地球規模に広がり、個人、企業、団体などさまざまな主体が海外に広く合理的な選択を求めて行動しようとする事から、地理的に広範な市場やネットワークが進展すること。また、個々の立場がその動きに影響を受けること。

#### ※あらゆる国籍の市民

国籍を問わず大分市にかかわる人のこと

#### ※多文化共生

国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。

## 【大分市の特徴や現状】

### 人口減少社会の到来・超高齢社会の到来

本市では、2015(平成27)年を境に人口減少が始まり、今後30年間で3人に1人が65歳以上の高齢者になると予測されています。全国に比べ出生率は高く推移しているものの、人口置換水準<sup>\*</sup>には及ばない状況です。このように少子化に伴う人口減少は、社会の根幹を揺るがす危機的状況を招くおそれがあり、定住人口の増加を図るための住みやすい環境を整備していくことが必要です。

### 大分市に住む外国籍を有する市民数

本市に住む外国籍を有する市民数は2016(平成28)年2月現在で2,649人となり、国籍別では中国(982人)韓国(678人)、フィリピン(306人)、ネパール(141人)、その他(542人)の順となります。また、外国籍を有する市民の割合は0.57%であり、全国平均の1.6%と比較しても割合は低くなっています。

### 留学生

大分県は人口10万人当たりの留学生数は全国2位であり、特に大分市と別府市には多くの留学生が暮らしています。

### 訪日外国人観光客の急増

ビザ発給要件の緩和や、円安などの影響により、日本全体の訪日外国人観光客数は急増しており、2015(平成27)年上半期では914万人を数え、過去最高の2014(平成26)年上半期626万人の1.5倍となっています。

大分県では、2015(平成27)年の外国人宿泊客数は約53万人で前年と比べ60.1%増となり、50万人超えは過去はじめてとなります。また、宿泊客の国・地域別では、韓国、台湾、香港、中国の順で多くなっています。

#### ※人口置換水準

現在の人口を維持できる合計特殊出生率<sup>\*</sup>の目安。国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集(2014)」によると、2012(平成24)年現在では2.07となっている。



ラグビーワールドカップイングランド大会



多くの留学生が参加したおおいたワールドフェスタ



ガレリアア竹町ドーム広場で行われた中国の祭「春節祭」

### 大友宗麟とフランシスコ・ザビエル

戦国大名大友宗麟は、聖フランシスコ・ザビエルを豊後府内に招き、海外との貿易を積極的に進めました。府内のまちは海外の品々があふれ、異国の人々が行き交い、西洋の医学、天文学、音楽、演劇をはじめとする南蛮文化がいち早く花開き、日本を代表する国際色豊かな貿易都市として繁栄しました。本市はこのような特色のあるキリシタン・南蛮文化の魅力を国内外へ発信するとともに、市民の郷土意識の高揚へ活用しています。

### ラグビーワールドカップ2019の開催

2015(平成27)年のラグビーワールドカップイングランド大会では日本代表の大活躍により日本中に感動とラグビー熱が広がりました。2019(平成31)年にはラグビーワールドカップ日本大会が12都市を舞台に開催されます。大分県も開催都市のひとつであり、本市にある大分スポーツ公園総合競技場が会場となります。世界から多くの観客や観光客が訪れることが期待されます。

### 市民意識調査

2015(平成27)年1月末～2月にかけて、市民2,000人及び留学生、国際関係団体などへ「第3次大分市国際化推進計画策定に係る市民意識調査」を行いました。「普段の生活の中で、国際化を身近に感じる機会は少ない」など、本市の国際化に関する多くのご意見をいただきました。

※調査結果の詳細は巻末の資料「大分市国際化推進計画策定に係る市民意識調査～報告書～」をご覧ください。

#### ※合計特殊出生率

15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に産むとした時の子どもの数に相当。